

高 知 県

高知県退職高等学校長会（三楽会）

結成 昭和 49 年 4 月

本県の退職高等学校長会は、昭和36年3月に退職した県立高等学校長が「三六会」と称する親睦団体を作り、共に余生を励まし合い、交流の場を温めてきた。その後、年々退職する高等学校長の参加を得、組織も拡大したので昭和49年に「三楽会」と名称を変更し、会員を本県の公私立退職高等学校長（含：旧中等学校・盲・ろう・養護学校・特別支援学校の校長）として現在に至っている。なお、三楽会の由来は、孟子の「尽心」の中にある「君子に三楽あり」から取ったものである。

本会の最近の主な活動状況は次のとおりである。

○ 総会

規約では「総会は年1回とし、必要に応じ臨時総会を開くことができる。」としているが、これまでは春と秋の叙勲に合わせ年2回開催していた。しかし、諸物価の高騰で支出が増加し会の運営に支障が出てきたため、令和4年度からは規約どおり年1回春のみの開催となっている。



令和6年度 総会風景

○ 研修会

総会終了後、外部から講師を招き研修会を開催している。

令和5年度は講師に高知県立牧野植物園広報課長・研究員藤川和美氏をお迎えし、「天然の教場で学ぶ ～牧野富太郎の生涯～」と題した講演をいただいた。また、令和6年度は講師に高知県文教協会理事長垣内守男氏をお迎えし、「夢を叶えるジョンマンスピリット ～初めて世界を見た日本人 ジョン万次郎～」の題目で講演をいただいた。

令和5・6年度は、土佐が生んだ二人の偉人に関しての講演であったが、改めて二人の偉業を見つめ直すことができた。

また、総会はコロナも落ち着いてきたことや年1回となったこともあり多くの会員の参加を得ることができた。久しぶりの懇親会にも多くの会員をはじめ、講師の先生、来賓の県教委の皆様方にも参加していただき、楽しく和やかに交流を深めた。

○ 退職・現職校長交流会

一時期コロナ禍のもとで開催を控えていたが、コロナも落ち着いてきたことから、令和5・6年度は県教委の幹部の方々も交え、本県教育を取り巻く現状と諸課題等について情報交換を行うことができた。